

平成 29 年 2 月 23 日

保護者の皆さま

県立平塚農業高等学校長

平成 28 年度第 2 回授業評価アンケート集計結果

向春の候、保護者の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年 12 月に実施いたしました『第 2 回生徒による授業評価』集計結果の分析を次にまとめましたのでご覧ください。

今後も研究授業や教材開発などを行い、教職員の指導力向上をはかり、より良い授業を目指して改善に努力してまいりますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

(1) 調査内容

県下共通の内容として実施されているもので、3つの大項目（A～C）、8つの中項目（1～8）ごとに質問事項を設け、「4:かなり当てはまる」、「3:ほぼ当てはまる」、「2:あまり当てはまらない」、「1:ほとんど当てはまらない」の4段階の評価を行った。

[質問事項]

A. 授業内容

- 1（授業の準備、教材の工夫）教材が工夫されるなどして、取り組みやすい授業である。
- 2（授業の充実感）私は、授業で学習した内容がだいたい理解できている。
- 3（授業の進め方）生徒の理解度に合わせて、授業が進められている。

B. 指導方法

- 4（生徒主体の授業の工夫）授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。
- 5（説明のわかりやすさ）説明の仕方がていねいで、分かりやすい授業である。
- 6（生徒への接し方）生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている。

C. 自分自身の取り組み状況

- 7（学習への取り組み）私は、授業でわからないところがあったら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどして分かろうとする努力をしている。
- 8（態度・姿勢）私は、授業に対して意欲的に取り組んでいる。

(2) 各教科の結果

質問事項の評価「4：かなり当てはまる」の回答率(単位：%)を表にし、平成28年度第1回授業評価の調査よりも、評価が高くなっている部分を網掛けにした。

質問事項	国語	地歴 公民	数学	理科	保健 体育	芸術	英語	家庭	園芸 科学	食品 科学	農業 総合
1	46.6	34.6	20.3	48.4	38.9	39.5	25.7	31.4	36.3	31.4	39.0
2	36.4	23.9	19.6	26.8	35.1	41.1	21.0	19.7	29.1	20.9	27.9
3	42.1	26.1	21.2	39.2	38.6	34.6	23.0	26.4	33.3	29.3	29.4
4	51.7	30.1	23.4	48.4	36.0	35.7	22.1	47.8	33.5	30.4	31.8
5	49.5	41.9	24.5	47.3	39.9	41.1	29.1	30.5	39.3	38.5	35.8
6	39.4	25.8	21.8	35.7	39.9	42.2	22.4	25.2	34.5	31.7	33.5
7	35.8	29.5	27.3	32.7	35.8	45.4	27.1	26.0	34.3	25.3	34.9
8	45.9	36.6	28.9	41.3	45.0	53.0	33.6	35.1	44.6	33.2	40.5

(3) 各教科による集計結果の分析と対応策の概略

教科	集計結果の分析	授業改善の対応策
国語科	多くの項目で評価が上がってきている。1の授業の工夫については生徒の評価が高くなったのは、ワークシートやグループワークを数多く取り入れたことが大きいと思われる。	今後は、生徒の理解について焦点を当てて、2、3の項目を高めていきたい。また、6の項目のポイントも低いことから、クラス単位で行う授業が多いが、生徒一人ひとりに目を配るようにしていきたい。
地理歴史・公民科	すべての項目で第1回目の結果を上回っており、概ね成果が上がっていると考え。特に項目「4」は改善できた。 項目「1」・「3」・「5」では、「4：かなり当てはまる」と「3：ほぼ当てはまる」を合わせると9割を超えている。項目「2」でも9割近くになっている。生徒の理解度に合わせて教材を工夫したため分かりやすい授業だと答えている。生徒の実態に即した授業改善をおこなってきた成果と考える。	今後も生徒の実態に合わせて授業内容を精選し、教材の準備をして、分かりやすい授業を心がけていきたい。 項目「4 生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある」は、改善したとはいえ、課題があると考え。今後も授業形態を工夫・改善をおこなってきたい。

教科	集計結果の分析	授業改善の対応策
数学	<p>第一回と同様に比較的すべての項目で評価が高くなっていることが読み取れる。また各項目で「1」の評価が減少している。第一回の課題であった項目4の評価についても上昇している。</p>	<p>今後も改善点としては、生徒同士で問題解決に向けて話し合い、それを発表する機会を増やし、アクティブラーニングの視点に立った授業の展開を取り入れることで生徒の興味関心を高めていくなどの工夫を考えていきたい。</p>
理科	<p>多くの項目で、評価が高くなっていることから、授業に対する工夫の成果が現れていると考えることができる。生徒の授業への取り組む姿勢も積極的になっていることも、高い評価に結びついているものと考えられる。</p>	<p>これからも生徒の様子を常に把握しながら、授業展開を工夫し、わかりやすい授業を行うことで、生徒の授業への取り組み姿勢を向上させ、学習内容の理解と授業の満足度を高めていきたいと思う。</p>
保健 体育 科	<p>全体的にみて評価は上がっている。ほとんどの生徒が授業に積極的に取り組む姿勢がみられている。</p>	<p>引き続き授業展開の工夫や、研修・研究機関を通しての教員側の指導力向上を図りたい。</p>
芸術 科	<p>第一回と比較し項目6のポイントが下がり、逆に項目7が上がっている。これは生徒の自発的な学習の意欲と自覚が育ったものと分析できる。つまり、きめ細かく指導されているという受け身の実感から、自分から先生や友達に聞いて学習している、という自覚に転じたものだと考えられる。その要因として、項目3のポイントが上がり、一学期の改善点に挙げた項目4においても、いくらか上がったことから推測できる。</p>	<p>授業内容、指導方法の各項目において、評価3を4に引き上げるために、生徒の理解度や充実度をよく観察して、より一層の工夫を凝らし、対応していきたい。</p>
英語 科	<p>70%位の生徒が授業内容を概ね理解している一方で、英語が不得意な生徒も全体の20%位いるのではないかと思われる。理解度には差があり、それぞれにどのように定着させていくかは課題である。また、生徒同士で話し合う機会や、意見を発表する場については、前回よりは若干改善されたように思われる。どのように生徒主体の授業に変えていくかも課題である。</p>	<p>レベル別の教材を準備し、個々の生徒に合わせる工夫をする。宿題などを課して家庭学習を定着させ、生徒と双方向になるよう心がける。外国語を学ぶことの面白さに気付かせ、生徒の興味を引くように、アクティブ・ラーニングを意識しながらグループワーク等を徐々に取り入れていく。</p>

教科	集計結果の分析	授業改善の対応策
家庭科	<p>すべての項目の回答で4:かなり当てはまると3:ほぼ当てはまるが増加し、1:ほとんど当てはまらないが減少している。</p> <p>グループ学習を積極的に取り入れた授業展開により、生徒一人ひとりの授業に積極的に取りくむ意欲が向上したと考えられる。</p>	<p>生徒同士で考えて意見をまとめ実習を行い、結果を発表し考察することにより、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を目指す。そのために授業ごとに本時の目標と流れを明示し、生徒のやる気を高める。</p> <p>また、引き続き放課後に補習を行い、遅れている生徒への対応を行う。</p>
園芸科学科	<p>「4」と「3」の合計が、第1回と同等となった。「2」と「1」の結果が、第1回と同等または微増している。</p>	<p>学年後半にかけ、生徒の気のゆるみからか、「2」と「1」の結果が微増した。実習・授業の内容を再検討し、年間を通して良い評価となるよう取り組む。</p>
食品科学科	<p>生徒自身の態度・姿勢を除くと、「ほぼ当てはまる」「かなり当てはまる」を合わせた肯定的な回答が前回に比べて向上した。</p>	<p>課題としていた「生徒主体の授業の工夫」に大きな改善が見られたものの他の項目に比べるとまだまだ満足いく数値ではない。引き続き各科目において更なる工夫が必要である。</p>
農業総合科	<p>第1回の結果よりも、1～6項目において評価が上昇している。特に、項目4について、2以下の当てはまらなさと回答した数が減少しており、実習以外の授業でも、積極的に生徒同士話し合う機会を取り入れるなど改善ができたと考えられる。</p>	<p>今後も、グループワークや生徒同士でわかるところ、わからないところを対話させるアクティブラーニングによる授業を取り入れ、生徒が主体的に深い学びが実現できる環境づくりを築けるようにしたい。</p>
その他の意見	<p>より細かい指導を行うために、実習補助制度の再開を希望します。特に調理実習では事故防止のためにも実習助手制度が必要と考えています。(家庭科)</p>	